

# 小さなエコの大きな意味と信仰

すべてのいのちを守るために

吉川 まみ  
上智大学教授

## ⑨ 「炭素断食」でともに歩む四旬節

四旬節が始まりました。復活の祭儀を準備するために、灰の水曜日が始まって主の晩餐の夕べのミサの前まで続く約40日間。

回心し信仰と愛を深めるべく、聖書のみ言葉とともに、エコ実践の具体的方策を添えた四旬節エコカレンダーや炭素断食エコカレンダーを作る共同体やキリスト教学校も増えてきました。

今回は、エコ実践を考えるヒントにもなる「デコ活」をご紹介します。たいと思えます。

### 脱炭素社会を目指す世界 〜日本の私たちの目標〜

1990年代からの国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP)の歩みによって、地球温暖化問題の国際的な対策の枠組みが協議されてきました。2015年のパリ協定(COP21で採択)を踏まえ、いま、世界も日本も脱炭素社会の実現を目指しています。

日本は、18年に気候変動適応法が施行され、50年までに「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しています。

「カーボンニュートラル」とは、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを言います。この達成のために環境省は、30年度には二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を13年度から全体で46%削減するという目標も掲げています。

地球温暖化問題の国際的な対策が始まって以降、産業や運輸をはじめさまざまな業務部門では前年度よりCO<sub>2</sub>排出量が減少する傾向にある一方で、家庭からの排出量は1990年と比べて約6割も増加しています。

そのために、私たち一人一人が日常生活でエコロジカルな配慮を行い、ライフ

スタイルを変えていくことが不可欠です。

### 「デコ活」を知っていますか？ 〜ライフスタイル転換のために〜

日本の政府はいま、脱炭素社会に求められる国民・消費者の行動変容・ライフスタイル転換のムーブメント(運動)を起すべく、新しい国民運動を開始しています。

カーボンニュートラルに向けて我慢するのではなく、豊かで環境にもやさしい暮らしを目指して、官民が連携しながらさまざまな取り組みを提案するもので、この運動の愛称を「デコ活」と言います。

環境省の脱炭素ライフスタイル推進室によれば、「デコ活」とは、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を減らす(Decarbonization)と、環境に良いエコ(Eco)を含む「デコ」と活動・生活を意味する「活」を組み合わせた造語で、国民に広く公募して8200件の応募の中から選出された愛称です。

### エコ実践の指針と 「デコ活アクション」

#### 〜暮らしの中の「エコ」がけ〜

エコと心がけを掛け合わせた「エコろがけ」は、「デコ活」のロゴマークに添えられている言葉です。

環境問題への取り組みは、信仰に根差した共同体での固有性も重要な一方、多様な生態系に深く根差した地域ごとの見方や現実の社会的次元での具体的なエコ実践も必要です。

環境教育でもしばしば「Think Globally, Act Locally」(地球規模で見て、地域・足元から行動しよう)という活動指針が重視されるように、世界全体の動

向を踏まえた日本の地域社会の具体的な動きと連携していくことも有意義なことです。

デコ活では、例えば、クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッション、省ごみ、ごみの分別・再利用の促進、地産地消、公共交通機関の利用、自転車・徒歩移動、食品ロス削減、はかり売りの利用、好きなものを必要な分だけ購入、宅配便は一度で受け取るなど、個人が心がけられるエコ実践をデコ活アクションとして示しています。

同時に、こうしたアクションを促す組織活動や、それを後押しする制度作りなども必要です。そこで、企業・自治体・組織・個人が力を合わせるために、それぞれの立場でできることを提案しています。

### より少ないことは、 より豊かなこと

実のところ、エコ実践に目を向けると、行政や産業側に言いたいことは山ほど出てくるものですが、よりよい未来への希望に結ばれ、皆で一致することは可能です。その一致に「個人としての私」が、足元からできるかなかな」とを始めるのがエコ実践の原点です。

信仰の一部でもある環境保護、

私たちのよりどころとなる言葉を最後に分かち合います。

教皇フランシスコは回勅「ラウダート・シ」の中で、環境省が言う「カーボンニュートラルに向けて我慢するのではなく、豊かで環境にもやさしい暮らし」、豊かさの本質を次のように表現しています。

「キリスト教の霊性は、生活の質についての別種の理解を示し、消費への執着から解放された自由を深く味わうことのできる、預言的で観想的なライフスタイルを奨励します。わたしたちは、多様な宗教的伝統に、また聖書にも見いだせる、古来の教訓を思い起こす必要があります。それは「より少ないこと」は、より豊かなこと」という確信です。事実、新たな消費財がひっきりなしに氾濫し続けることが、心を惑わし、一つ一つの物事や、一瞬一瞬の時を大切にできなくしてしまいます。他方、たとえそれがどんなにささやかなものであっても、一つ一つの現実に着いて臨むことは、理解や自己実現というほかに大きな地平へとわたしたちを開いてくれます。」(222項)

四旬節、「より少ないことは、より豊かなこと」を深く味わう恵みを祈ります。



「デコ活」のロゴマークとメッセージ 出典:環境省ホームページ (<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/>)